

< 言語聴覚学科 > 入学試験問題

小 論 文

(注意)

- 1 試験官の指示があるまで、問題用紙及び解答用紙に触れないでください。
- 2 問題は2頁～5頁に印刷されています。
- 3 解答用紙に氏名，受験番号を記入してください。
- 4 机の上に鉛筆，シャープペンシル，消しゴム，時計（辞書・計算・通信機能のついていないものに限る），受験票以外は置かないでください。
- 5 受験票は番号札の手前に置いてください。
- 6 マスクを着用している者は，試験官が本人を確認する間，マスクを外してください。
- 7 ハンカチ，ティッシュペーパーを使用する者は，静かに挙手をして，試験官の指示に従ってください。
- 8 試験中の途中退室は認められません。ただし，気分が悪くなったり，トイレへ行きたくなった者は，静かに挙手をして，試験官の指示に従ってください。
- 9 試験問題に関する質問は一切受け付けません。
- 10 試験終了後，試験問題は持ち帰って結構です。

(問題は次のページから始まります)

【問題文】

【課題文】は、看護師でもある研究者（課題文の筆者）が、植物状態の患者（住田さん）を担当した看護師（Aさん）にインタビューした記録に基づいて書かれたものである。下記項目および【課題文】をよく読み、感じたこと、考えたことについて600字以内にまとめ、最後に小論文のタイトルをつけなさい。

（文中にでてくる施設・制度・人物）

- Tセンター：自動車事故によって植物状態（遷延性意識障害）になった患者を受け入れる病院。植物状態とは、一見意識が清明であるように開眼するが、外的刺激に対する反応、あるいは認識などの精神活動が認められず、外界とコミュニケーションを図ることができない状態の総称。
- プライマリー（ナース）：Tセンターの看護体制は、一人の患者のケアを一人の看護師が責任をもって受け持つというプライマリー制をとっている。入職後半年からはアソシエイトナースとしてプライマリーナースとともに患者を受け持ち、勤務が1年以上かつ所定の教育プログラムを受けた段階でプライマリーナースとなる。その役割は、受け持ち患者のケアプランの作成と実施、自分が勤務していないときにも他のスタッフがスムーズにケアを行えるように工夫すること、患者への看護介入の成果についての評価、家族とのやり取りを行うことである。
- 住田さん：50代男性。約20年前、歩行中に後ろから来た車にはねられて受傷。直後より昏睡状態となり、搬送された病院で多発外傷、脳挫傷、および開放性頭蓋骨骨折と診断された。急性期を脱した後にかろうじて医師の指示に従う反応が見られたが、けいれん発作を頻発し指示に従う反応がまったくなくなった。受傷後5年後にTセンターへ入院した。
- Aさん：女性看護師。勤務年数は4年。Tセンターでアソシエイトナースとして住田さんに関わりはじめ、その後プライマリーナースとして担当した。インタビューの時点で、住田さんはすでに亡くなった後である。

（語注）

端坐位：椅子やベッドなどの端に、足を下ろして座った姿勢

経口食：口から食べること

関節可動域：関節を動かせる範囲

【課題文】

この文章は、著作権上の都合により公開できません

